

続・ふるさと

こぼれ話

### 青木の親腸先生④

— 酒井良清物語 移動公民館② —

第72回

町広報紙「芳賀町のあゆみ」の昭和31年6月20日号に第2回目の移動公民館の1日を密着取材した記事が載っている。数回に分けて紹介したい。明ければ20日、危ぶんだ天候は上々である。7時集合の各係員によって、まずオート三輪車に本箱を取り付け、図書の積み込みがされる。写真機は昨日、使用中に破損してしまったというので、やむなく幻灯機に替えて必需品一切を車に積み込んだが、肝心の拡声器が来ない。時間はすでに7時40分だ。出発時間が迫ってくる。

酒井館長がオートバイで迎えに出かけると、途中で出会ったラジオ屋と一緒に戻ってきた。大至急でマイクを取り付け出発。時に8時10分。一同それぞれの車に飛び乗って、第1駐車場の加賀地に飛び出す。館長の車を先頭に、オート三輪車を役場支所の単車とかななか元気な行進だ。加賀地の農業倉庫前到着が8時25分、25分の遅延だ。図書箱を開き、むしろを敷いた診療所が急造され、準備終了。そのころからぼつぼつと集落の人が集まってくる。

役場の古濠がマイクに飛びついて放送を始める。山峡の加賀地の静かさの中に、よく通る声が流れる。次は農協の黒崎係員から農協総会その他が報じられる。次に農業普及員の平野さんが時期の農作業の注意やら心得やらを報じるころには、移動公民館の周囲には前回の返本や新規の借り受け希望の集落の人たちが次第に数を増してくる。館長さんの健康相談の方もなかなかの繁盛ぶりだ。停車時間の終了近くになると、移動公民館を取り巻く人も減って、係員は、ぼちぼち(1カ所目)閉館の用意にかかる。(つづく)



▲目当ての本を探す人たち

## しまたがしの 芳賀の自然

24



### テングチョウ チョウ目テングチョウ科

写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所:町内  
分布=北海道~沖縄  
生息地=雑木林周辺で生息し、湿地を好み群れて吸水する。  
時期=5月~6月(発生:年1回)夏期は休眠し成虫で越冬する。  
食性=幼虫はエノキ、成虫は花の蜜や樹液など  
大きさ=開張(羽を広げた最大値)25mm  
特性=天狗の鼻のような頭部の突起から名前が付いた。裏は枯葉模様だが、表は黒褐色の地に小白点と橙色紋が目立つ。

### 編集後記

□先日やつと春の息吹を感じることができました。ふきのとうを発見したのです。  
□調べてみると、春一番に生えてくる山菜だそう。ふきのとうといえは…ふきのとう味噌にてんぷら、油いためなど、独特の香りとほろ苦さを味わう料理がたくさんありますよね。

□山菜は採るのも食べるのも好きですがまだ収穫には小さいので、大きくなるのを見守りたいと思います。

(K)



▲東水沼地内

■編集 芳賀町広報広聴委員会  
☎028 (677) 6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp  
■発行 芳賀町企画課  
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地  
■芳賀町ホームページアドレス  
http://www.town.haga.tochigi.jp

④芳賀町の携帯サイトはコチラから➔

